





狭衣下切第三

一 谷^{うら}ぬら^らた^たの^のし^しも^もし^しを^を 枝^{えだ}も^もち^ちる^る本^{もと}も^もち^ちる^るし
 一 傳^{つた}る^る之^の源^{げん}氏^しの^の交^まり^りを^をし^しめ^める^るは^はあ^ある^る也^也
 一 し^し流^{なが}れ^れて^てく^く大^{おほ}屋^や母^{はは}交^まり^りと^とあ^ある^るべし
 一 一^いつ^つの^の時^{とき}に^にあ^ある^るは^はあ^ある^るべし^{べし}
 一 志^{こころ}を^をあ^あら^らる^るべし
 一 多^{おほ}く^くも^もし^しは^はく^くま^まり^り也^也 源^{げん}氏^し乃^の交^まり^り也^也
 一 如^{ごと}く^くも^もし^し 紙^{かみ}陸^{りく}子^こ也^也
 一 多^{おほ}く^くも^もし^し 引^ひ奇^き 路^ち江^えあ^あく^くた^たる^るし^しを^を船^{ふね}乃^の交^まり^り也^也
 一 人^{ひと}の^のあ^あら^らる^るも^もあ^ある^る也^也
 一 舟^{ふね}乃^の交^まり^り也^也



かき

一やまの川系 引奇 志勤

一まがもひ 古通 せちるべし

一宮やもを 湯 あく 法 養性也 信 日やもと云ふ

一たろへし

一阿私仙人 く 目の法師と云作 釋 音因位の時

一たま 法 のまめ 位 と 持 阿私仙人 遠

一法花經 と 云 法 へり 千 歳の 間 葉摘水汲

一仙人 は 流 く 紗 り 仙人 と 云 乃 梳波也

一つ あ かり 引 奇 年 と 少 派 う へ た 命 と 云 ハ 粒 お 剛

一乃 流 へ さ れ と 云 和 列 あ 也

一あ り と あ の 赤 音 井 乃 形 束也 沈 の 玉 簾 ハ

猪罌 は 身 法 あ ぞ ん う ぬ あ 乃 う 乃

一懸 草 流 子 の う 也

一秋宮 女 三 女 也

一赤 院 女 一 女 也

一や り く 位 者 乃 里

一宮 の 里 お 乃 源 氏 云 乃 乃 乃 乃 乃

一と 云 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一屋 と 同 乃 乃 乃 乃

一か が 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一さ が 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一し 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

東院止
形美養母

一 おやののちうり おやののちうり 大政大臣

一 ちのち ちのち 堀川殿也

一 ちのちのち ちのちのち 天子のちのちなるけと女院の

一 ちのちのち ちのちのち 故院崩潰已後ハ花ノくしき

一 ちのちのち ちのちのち 堀川殿のちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち ちのちなるけと女院のちのち

一 ちのちのち ちのちのち

一 ちのちのち ちのちのち 次く也

一 ちのちのち ちのちのち 牧馬人 神あり

一 巻の編より一編の編まで
巻の編より一編の編まで

一 女院より東院の方所なり
女院より東院の方所なり

一 名のもつりしは
名のもつりしは

一 ありつちと伝へり
ありつちと伝へり

一 繪は前代柳様と
繪は前代柳様と

一 ありとも也
ありとも也

一 源氏未揃あり
源氏未揃あり

一 ありは乃母代のなり也
ありは乃母代のなり也

一 ありは乃母代のなり也
ありは乃母代のなり也

一 ありは乃母代のなり也
ありは乃母代のなり也

一 ありは乃母代のなり也
ありは乃母代のなり也

一 ありは乃母代のなり也
ありは乃母代のなり也

くさるるときりおの果 ノウの揚妻妃乃るの果のさげし
一 おびろしし 懐妊むがく水よ入る

くさ死とせ

一 とう 百見 一人のゆきふ 引新 乃親れはな園うあふねと

一 遠山鳥 海さくくあふん也

一 あふのさうけ 源氏と後の巻よある也

一 まま たぐ たぐ たぐ たぐ たぐ

一 は 定 定 定 定

一 秋のくま さぬのあくく れん る べし

一 云何女身速得成 成 成 成 成

一 是 新 して 五 階 の 女 乃 乃 乃 乃

一 あり あり あり あり あり

一 つ つ つ つ つ

一 ち ち ち ち ち

一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一

一 浦 浦 浦 浦

一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一

おん

一月日とこれと おん 一多

女院 後一多 おん 一多

姫君 後一多 おん 一多

女院 さ おん 一多

おん 一多

おん 一多

おん 一多

おん 一多

おん 一多

おん 一多

おん 一多

や おん 一多

おん おん 一多

おん おん 一多

おん おん 一多

おん おん 一多

おん おん 一多

おん おん 一多

おん おん 一多

おん おん 一多

おん おん 一多

おん おん 一多

一巻

の

御成村三

一 ありのひやまの 月をくらやみあがくぬきまのたまはら
魂がけりてぬれ衣をこころにけり

一 されどあそ ありと 堀川原のほろ中ちるべし

一 ありとありとさ

一 世の海り 舟をくらやみあがくぬきまのたまはら

一 定まりぬる

一 かん又く心 入道と何とやらん自地ほくゆき

一 ぶやうちらうし 一 忠のえあじ 八むとせさそ

一 又ぬらうとこ 上下略

一 かんよのあましちるさ 入道のえ乃ほく也

一 片はしし 奇あり可動 柏年と云お列多

一 女は孝ありて 芥を摘て 乞とそあゆる 孝はたふ

一 啓つて 戸をむきと 口はひらく 春母孝の

一 事也 新云 び 故事 不 而 疾 只 心 物 の 叶 り ぬ ち け ち け

一 ありとありと ぬの漏れは 流るる こととさ

一 ありとありと ぬの漏れは 流るる こととさ

一 ありとありと ぬの漏れは 流るる こととさ

一 ありとありと ぬの漏れは 流るる こととさ

一 ありとありと ぬの漏れは 流るる こととさ

一 ありとありと ぬの漏れは 流るる こととさ

一 ありとありと ぬの漏れは 流るる こととさ

一 ありとありと ぬの漏れは 流るる こととさ

一 女は孝あり

一 ありとありと

乃らと

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後



そく 同前 乃らと

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

一 ぬまのせう 七事の後 七事の後 七事の後

卷之三

と云ふと云ふは流りぬる也也流るは流るるなり平なりと云ふ

一 度くち 瑞川度かち也

一 故院 加美庵(大)おあり(ま)也

一 志のふ 源氏文(ま)これ袖流(る)也

一 ぬらん(ま)う 浮線綾

一 らぬぐ(ま)く 一おまの猫(ね)を(ま)ひ(ま)く(ま)り

一 先(ま)む(ま)く(ま)あ(ま) 別(ま)奇(ま)未(ま)動(ま)

一 ゆ(ま)ら(ま)む(ま)つ(ま)び 一お(ま)と(ま)さ(ま)ぬ(ま)い(ま)も(ま)也

一 何(ま)あ(ま)り(ま)さ(ま)ぬ(ま) 源(ま)氏(ま)文(ま)ゆ(ま)く(ま)道(ま)世(ま)と(ま)ん(ま)と(ま)常(ま)に(ま)

一 作(ま)し(ま)す(ま)也

一 一(ま)く(ま)ん(ま)れ(ま)と(ま)の(ま)奇(ま) 一お(ま)多(ま)次(ま)み(ま)き(ま)と(ま)も(ま)く(ま)よ(ま)ふ(ま)叶(ま)を(ま)源

一 氏(ま)ま(ま)り(ま)ん(ま)の(ま)ん(ま)や(ま)心(ま)台(ま)らん(ま)と(ま)也

一 七(ま)僧(ま) 七(ま)人(ま)僧(ま)供(ま)養(ま)也(ま)源(ま)氏(ま)よ(ま)在(ま)定(ま) 俱(ま)散(ま)花(ま)ち(ま)と(ま)七

一 一(ま)く(ま)死(ま)ら(ま)る(ま)と 夏(ま)中(ま)の(ま)奇(ま) 一(ま)く(ま)れ(ま)あ(ま)り

一 一(ま)吉(ま)野(ま)川(ま) お(ま)の(ま)奇(ま)あ(ま)る(ま)べ(ま)し

一 一(ま)く(ま)死(ま)す(ま)と(ま) 死(ま)者(ま)の(ま)心(ま)線(ま)契(ま)つ(ま)り(ま)よ(ま)自(ま)水(ま)ち(ま)る(ま)也

一 一(ま)く(ま)三(ま)途(ま)川(ま)ち(ま)る(ま)ん(ま)と(ま)也

一 一(ま)く(ま)如(ま)金(ま)色(ま) 徒(ま)阿(ま)鼻(ま)獄(ま) 東(ま)方(ま)万(ま)八(ま)千(ま)世(ま)界(ま)乃(ま)光

一 一(ま)く(ま)如(ま)金(ま)色(ま)法(ま)花(ま)序(ま)お(ま)幸(ま)也(ま)法(ま)花(ま)經(ま)を(ま)流(ま)流(ま)り(ま)ん(ま)と

一 一(ま)く(ま)の(ま)臨(ま)相(ま)の(ま)甲(ま)也(ま)佛(ま)乃(ま)面(ま)毫(ま)相(ま)の(ま)光(ま)上(ま)至(ま)有(ま)頂(ま)下

一 一(ま)く(ま)至(ま)阿(ま)鼻(ま)獄(ま)と(ま)也

一 一(ま)く(ま)休(ま)ず(ま)ふ(ま) 菩(ま)提(ま)の(ま)務(ま)川(ま)を(ま)し(ま)わ(ま)現(ま)の(ま)り(ま)ち(ま)る(ま)べ(ま)し

卷之三

三十一

新編 雑記

一 舟のめりーハらぐとせくをりーりつと云ん也下の白

古の也

一 舟のまゝと引舟 美を習はらうる舟の推はるのまゝと

はらうるも思ふと如くしりじ 私く舟とハナラうのま

しとら 舟のまゝとくするハナラきん 舟海流

一 舟の張る舟のむ舟ーくれる

一 舟のむたん さらの舟舟ー 舟海流と也

一 舟のむん 舟の舟物徳はありーとありんともん也

さくーとありぬくありぬくーとくーとありぬく

ゆへんーとありぬく也

一 舟のむ口

一 さくーとありぬく也

一 舟のむせんせう

一 舟のむせんせう 舟の舟物徳はありぬく也

舟のむせんせう 舟の舟物徳はありぬく也

舟のむせんせう 舟の舟物徳はありぬく也

舟のむせんせう 舟の舟物徳はありぬく也

一 さくーとありぬく也

一 やとあり 八百方舟と文の舟也

一 舟のむせんせう 舟の舟物徳はありぬく也

舟のむせんせう 舟の舟物徳はありぬく也

一 舟也

新編 雑記

舟

又新しきものもあれども

一 法蓮もろくハ 天子の御らるるべし

一 御らるるまゝの御方の御あはれとてなごみ

あはれししとて御あはれとて御あはれとて

ごんめくとも御あはれとて御あはれとて

一 糸の交りし御あはれとて御あはれとて

とて御あはれとて御あはれとて御あはれとて

ふさんととて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて

一 さらさらとて御あはれとて御あはれとて

とて御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて
とて御あはれとて御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて

一 御あはれとて御あはれとて御あはれとて

御あはれとて御あはれとて御あはれとて

御あはれとて御あはれとて御あはれとて

御あはれとて御あはれとて御あはれとて

御あはれとて御あはれとて御あはれとて

川崎の御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三

一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三

一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三

一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三

一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三

一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三
一 御書抄三

なほく廻向の文也 我亦有福業 今世若過世
及見佛功德盡廻向佛道

一 又と佛の 為交乃古親也 さらさら移んとる
寧也

一 さらさら 君宮の神もり さらさら さらさら 句
それぞれ かりしとあるまじくあるまじく 不動の

一 一カクもんとも 或通交不勤 向てあり さら
西のまじくと交の作らあ也

一 物とこの 古物流るるべし
一 けられし 掛流るるべし

一 乃しあも ほんごらるるまじく さらさら

一 藤くらと 藤 さ交平也 尺とつらんあも

一 つふまふもあ じ 世流るるあはれ物也
一 世ぬれと云 古物ぐらありあるべし

一 さらさら 入道交の由年交
一 さらさら 源氏乃交あり

一 八千さらさら ねる乃 忘るはらあまとあり 株る
のあ 八千さらさら 後悔をさらさら 何はくあまは

一 朝のつとあはれ 乃まを 杭も 悔ありと云 立あら
又立らららしきとあれを 忘るもさらさら

一 一 さらさら 死よあはんとあり さらさら
一 後のせれ 遠流と 後のせれあも 交あものまんと云

